

書の伝統と文化についての理解を深めるための指導方法等の工夫改善

北海道松前高等学校長 花 木 弘

平成23年度・24年度の2年間、国立教育政策研究所教育課程研究センター関係指定事業【教育課程研究指定校事業(芸術科書道)】の研究指定校となり、研究主題は「新学習指導要領の趣旨を具体化するための教育課程編成、指導方法等の工夫改善に関する研究」であり、書道科としてのテーマを「書の伝統と文化についての理解を深め、表現と鑑賞の能力を高める指導と評価の在り方に関する研究」とし、「書道Ⅰ」におけるこの2年間の数々の実践と研究の成果をここにまとめました。

さて、本校において書道教育を特色ある教育の一つの柱として特化した教育課程を編成したのは、平成22年度入学生からでした。平成20年7月に、「松前町教育指針条例」が施行され、平成21年から町づくりの一環として「書のまち、松前」の取組が始まり、小学校では平成22年度より文部科学省の「教育課程特例校制度」を活用して小学校の教育課程に「書道科」を新設し、書家故金子鷗亭先生の生誕地にふさわしい書道教育が小中高一貫で推進され、今日に至っています。このような中で、本校も先に述べたように書道教育に特化した教育課程を編成し、一つの特色ある教育として実践しているところです。この本校の書道教育をさらに充実、深化させるためにこの指定を受け2年間にわたる研究を推進しました。

本研究にあたっては、函館美術館や地域施設との連携、協力等を得ながら、様々な角度から授業内容の工夫改善を図ることで、研究の成果となりました。本校の書道教育の充実、深化はもとより、生徒の書に対する意識向上や書写能力の向上、思考力・判断力・表現力の育成による鑑賞の能力を伸長させるに至り、新学習指導要領のねらいに添った研究成果を得、生徒達も「書の伝統と文化について理解が深まる」所期の目的が達成できました。さらにこの研究で、町内はもとより、全道・全国へ「書のまち、松前」にふさわしい高校としての取組の成果を発信することができましたことに関係の皆様へ感謝申し上げます。

今後、この研究指定の成果を踏まえ、より高い次元に授業内容を発展させるためにも、国語科との連携を始めとし、教科間の連携等を取り入れるなど、さらに創意工夫した教育課程を編成・実施して参ります。そして伝統文化としての書道教育を追究し、先進的な取組を本校から全道・全国へ発信して参りたいと存じます。

最後に、2年間にわたり御指導、御助言をいただいた文部科学省教科調査官の加藤泰弘先生、北海道教育委員会の皆様、並びに関係の皆様方に改めて御礼を申し上げ、発刊にあたっての御挨拶といたします。

なお、この報告書を御高覧願ひ、御感想等をいただければ幸甚に存じます。